

よくある言い回し。それナゼ!?

<p>「場内での飲食・喫煙はご遠慮ください。」</p> <p>もともとヨーロッパから伝わったクラシック音楽。本場の劇場は「おめかしする」「社交の場」「お客様同士で見られている」といった日本文化ではない意識が存在しています。日常を忘れて楽しむということも目的の一つなので、食べ物のおいや音はない方が良いですね。喫煙は安全面も考えて、指定の場所をお願いします。お茶等はロビーやラウンジで♪</p>	<p>「演奏中の入退場はご遠慮ください。」</p> <p>ドアの開閉や席の移動は、定刻に来て真剣に聴いている人の楽しみを奪うこととなります。物音がしたり、動き回ったり、明かりが差し込んだりすると意識が「動く方」になってしまうからです。演奏が始まっていたら、一曲または一楽章が終わるまでドアの外でお待ちください。曲間やトークの間に席についていただきます。その時まで、スタッフの案内をお待ちください。</p>	<p>「携帯電話はマナーモードに設定の上、予め電源をお切りください。」</p> <p>電話の相手は、状況がわからず電話をかけてきます。ピアノシモ(pp)で静かに演奏を聴いているとき、いきなり携帯電話が鳴り出したらどうでしょう!? 電源は切ったと思っけていても、ウェイクアップ操作が有効になっている可能性があります。万が一のためにもマナーモードにしてから電源をお切りください。</p>
<p>「携帯電話や腕時計などのアラームは解除してください。」</p> <p>TPO をわきまえず鳴ってしまうアラーム。生演奏を楽しんでいるときにアラームが鳴ってしまうと出演者も周りの人も驚いて、今まで聴いていた良い音楽を妨げてしまいます。そして何より一番は、持ち主が焦ります。</p>	<p>「カメラ、携帯電話での写真撮影・録音・録画はお断り申し上げます。」</p> <p>シャッター音やフラッシュは真剣に音楽を聴いている人の邪魔者になります。また、出演者の肖像権侵害になるので、撮りたい気持ちはちょっと我慢。</p>	

みんなで楽しく聴くために・・・♪

? 周りが静かで咳もできない・・・?

演奏会場では、心を落ち着けてゆったりとした気持ちで音を楽しんでいただきたい（それが音楽!）と出演者もスタッフも願っています。「私一人くらい大丈夫…」と思ったヒソヒソ話やプログラムのガサガサ音、実はとっても遠くの人にも聞こえています。せっかくの雰囲気壊さないためにも、ちょっと心配りをしてみてください。もちろん生理現象である咳はしても大丈夫。ハンカチをお口に添えて、できるだけ大きな音がしないようにしましょう。ただ、あまり止まらないときは、一度ロビーの新鮮な空気を吸ってお休みください。落ち着いたらまた客席でゆっくりお楽しみください♪（曲と曲の間でね!）

? もし雨がふっていたら・・・?

映画館は傘ホルダーが座席の背に付いていることがありますが、演奏会場では見たことがありません。会場入口の傘立てを利用するか、傘袋に入れて場内へ持込みます。持込みの場合、長い傘はご自身の足下か座席下に横にして置いてください。前の座席に立てかけると、「パタンッ!」と大きな音を立てて一気に注目を浴びること間違いなし…。



演奏される曲を知らないで楽しめない！？



そんなことはありません。「曲名は知らなかったけど、聴いたことのある曲だった」ということもよくあります。また、知らない曲でも「今日知った」ということになるのです。いくつかの楽器で演奏するアンサンブルの時は「主役」が移っていきます。主役がメイン・メロディを弾いて、他の楽器が伴奏者になります。「次の主役は誰？」と探し当てながら聴いてみてはいかがでしょうか。ソロ演奏の時は演奏者の表情や動きも見て、「楽しいの？」「悲しいの？」と想像してみてください。



いつ拍手をして良いの・・・？



拍手はお客さまから出演者への意思表示。拍手の音が大きければ大きいほど「演奏が良かった！」「サイコー！」という意味になります。短い曲や有名な曲であれば終わりがわかるけれど、ソナタや室内楽など何楽章もある曲だとどうして良いかわかりにくいですよ。素晴らしい演奏には一楽章ごとに拍手をしたくなりますが、そこはぐっとおさえて最終楽章が終わってから盛大に拍手をおくりましょう。その最終楽章がいつ終わったかわからない方は、座っていた出演者が立ち上がったときや、立ち演奏ならばお辞儀をするときに、拍手をすると良いでしょう。また出演者がそのまま退場するときは、舞台袖に戻る最後まで温かく見送りましょう。

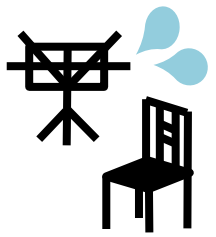


音のない“間”とは・・・？



演奏終わりの「音のない空白の時間」・・・その“間”もまだ大事な演奏の一部なのです。歌手が声を出し切って、ふっと我に返って普通の息をし始めたとき、演奏者の腕の力がふっと抜けて下に脱力されたとき、この瞬間まで演奏は続いています。その「ふっと息が抜けた瞬間」に思わず拍手を打ちたくなる・・・その自然な気持ちで良いのです。誰よりも早く拍手を打ち始める！というのは、通のようで通でない！？

舞台ウラ事情 ～マナーからちょっとはなれて～



舞台転換はてんてこ舞い

次の曲のためのステージセッティング。曲によって譜面台が必要だったり、さっきと場所が違ったり、照明のタイミングをはかったり。一見、涼しそうなステージですが、舞台袖では次の準備で緊張しています。

プログラムにはないおまけがあるかも・・・？



当日会場で配布されるプログラムには、レストランのメニューのように演奏される曲名がずらりと並んでいます。全部の演奏が終わっても、「良かった」という気持ちをアピールする拍手を続けていると、出演者が再度ステージに現れます。すると拍手のお礼の意味を込めてプレゼント演奏をします。これが「アンコール」です！通常1～2曲を演奏します。しかし、拍手がないと演奏したくてもできないのです。ステージ上のドアが閉まらなかったり、舞台の照明がなかなか消えなかったりしていたら「アンコールがあるかも！？」とちょっと期待を込めて拍手をしてみてください。

これであなたもマナーの達人！協力し合って、みんなできめくひとときを♪